

# 第8学年A組 国語科学習指導案

指導者 前嶋 洋子

## 1 単元 説得力を高めよう

教材名「哲学的思考のすすめ（東京書籍）」

## 2 目標

- 論証の組み立てを捉え、説得力があるかどうかを吟味することに関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 説得力を高めるために、根拠を具体的に記述したり、反例や他の立場への反論を盛り込んだりする。  
(書くこと)
- 自分の知識や体験と関連付けながら、身近なことについて考えたり、論証に説得力があるかどうかを吟味したりする。  
(読むこと)
- 文章中に出てくる抽象的な概念を表す語句、対義語や類義語などに即して、語感を磨き語彙を豊かにする。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 3 児童・生徒の実態（39名）

(平成28年9月13日実施 37名)

実態調査では、意見文の結論を捉えることができた生徒は22名、根拠を捉えることができた生徒は18名であった。しかし、その根拠に説得力が十分にあるかどうか、説得力が弱いとしたらどうしてかを考えることができた生徒は8名にとどまっている。多くの生徒が根拠に問題意識をもつことなく、読み流してしまっていることがわかった。

	調査内容（本時の基礎となる力）	正答者数
1	文章を読み、結論を捉えることができる。	22名
2	文章を読み、根拠を捉えることができる。	18名
3	文章を読み、説得力が弱い理由について捉えることができる。	8名

## 4 指導観

本単元は、「哲学的思考のすすめ」という説明的な文章の学習を通して、批判的に吟味しながら読む（クリティカルリーディング）力を育成しつつ、説得力を高める方法を自覚的に学んで活用していくものである。「哲学的思考のすすめ」で重視しているのは、論証に説得力をもたせるために、どのように自分の考えを組み立てているか、また吟味しているかを捉え、さらに、それを自分自身で考えるときにも生かすことである。吟味のために筆者が用いている方法が、「結論について、反例やほかの考えの可能性がないかを考えてみる」ことである。そこで、本時では筆者の著書「新版論理トレーニング」の中で紹介されている『あえて反論する』という方法を実践したい。これまでは聞き流し、読み流してしまっていた友達の考えにあえて立ち止まり、互いに反論を試みる。そして、互いの考えを『あえて反論する』という交流によって修正していくことで、より説得力を高めることができるということが実感させたい。

## 5 研究テーマに迫るために

本学園の国語科の8～9年の学びの系統表では、「異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、論理的な構成や展開を考えて書いたり、話したりすることができる」ことを目標としている。本時では、「幸せとは何か。」「優しさとは何か。」という論題に分かれて結論や根拠を考え出し、それについて互いに『あえて反論』することで、グループやクラス全体で、それが妥当かどうか、説得力があるかどうかの検討を行っていきたい。また、自分が考えた根拠を検証・批判される経験を前向きに捉え、説得力を高めるためには、反論を予測したり、反例を示したりすることが大切であることを実感させたい。

● 焦点化

- ・論題を「幸せ」「優しさ」に絞る。
- ・課題を「あえて反論する」に絞る。

□ 視覚化

- ・各グループの結論を掲示し、全員が話し合いの論点を理解できるようにする。

◆ 共有化

- ・グループで検討したことを発表し合い、全体で考えを共有する。

## 6 指導計画

- 第1次 「哲学的思考のすすめ」を読み、論の展開の仕方について理解する。・・・5時間
- 第2次 「身近なこと」について考えたことを、反対意見を想定しながら文章にまとめる。・・・4時間

時	主な活動内容	観点別評価							
		関	話聞	読む	書く	伝統	評価の規準	評価方法	
第2次	1	・グループで具体的な自分の経験などを出し合う。	○					意欲的に発言している。	観察
	2	・前時を振り返り、「幸せとは何か。」「優しさとは何か。」について、結論と根拠をまとめる。			○	◎		具体例をもとに、結論と結果をまとめている。	ワークシート
	3	・他グループの結論と根拠について、『あえて反論』し、説得力があるかどうかの検討をする。(本時)	○		◎			反例などを考え、論証を吟味している。	観察・ワークシート
	4	・考えを見直し、意見文にまとめる。				◎		考えを見直している。	意見文

- 第3次 説得力のある提案をする。(プレゼンテーション)・・・5時間

7 本時の学習

(1) 目標

反例を考えたり、ほかの考えの可能性を探ったりすることで、論証に説得力があるかどうかを吟味する。

(2) 準備・資料

ワークシート、論証ワークシート（交流用）、各グループの結論の掲示物、電子黒板、デジタル教科書

(3) 展開

●：焦点化 □：視覚化 ◇：共有化 ※：人権教育の視点 ◎：評価

展開	児童・生徒の主な活動	予想される つまずき	UDの視点及び 指導上の留意点
課題把握 5  課題認識 10  比較検討 20  全体検討 10  まとめ 5	1 学習課題を把握する。 『あえて反論』して論証を吟味しよう。 2 各グループから結論と根拠を提示し、他のグループの論証について確認する。 <論題> 『幸せとは何か』 『優しさとは何か』 <論証の仕方> 『幸せ（優しさ）とは、～～ことだ。例えば、～～や～～ときに幸せ（優しさ）を感じるからである。』 3 他のグループの論証について、反例を考えたり、ほかの考えの可能性を探ったりして、『あえて反論』する。 (1) 『幸せとは何か』について論証したグループは、『優しさとは何か』について反論を考える。 (2) 『優しさとは何か』について論証したグループは、『幸せとは何か』について反論を考える。 4 他のグループの論証についての反論を発表する。 <反論の仕方> 『〇班は幸せ（優しさ）とは～～ことだ、と言っていますが、～～や～～ときには幸せ（優しさ）を感じることはないと思います。』 『私たちの班では幸せ（優しさ）とは～～ことだと思います。』 5 本時の学習を振り返り、自分たちの論証について振り返る。 論証の説得力を高めるためには、反例や他の考えの可能性を探ることが大切である。	・なぜ反論することが説得力向上につながるのかわかること。  ・反論するための、考えるべきポイントに着目すること。  ・様々な考えにふれ、自分の考えを広げることが、説得力のある論証につながる。	●前次の学習内容「哲学的思考のすすめ」における論の展開の仕方を振り返り、「反例」や反論について確認する。 ●グループ間の交流深化を図るため、論題は『幸せとは何か』『やさしさとは何か』に絞る。 □各グループの結論を掲示しておき、全員が話し合いの論点を理解できるようにする。 ・結論に当てはまらない具体例はないかを考えるよう助言する。 ・「幸せ」と「うれしさ」、「優しさ」と「厳しさ」など、類義語や対義語と比較してみるよう助言する。 ・具体例を別の角度から検討してみるよう助言する。 ◇グループで検討したことを発表し、全体で考えを共有する。 ※他の考えをよく聞いている。 ・反論されても、感情的に反発したりせず、互いの説得力を高めるためのことであることを確認する。 ◎反例を考えたり、ほかの考えの可能性を探ったりすることで、論証に説得力があるかどうかを吟味している。（ワークシート）

8 板書計画

学習の流れ 課題把握● 課題認識 比較検討 全体検討 まとめ	③ 論証の説得力を高めるためには、反例や他の考えの可能性を探ることが大切である。	【反論のヒント】 ・結論に当てはまらない具体例 ・類義語や対義語と比較 ・別の角度から検討	○班 結論 ○班 結論 『優しさとは何か。』	○班 結論 ○班 結論 『幸せとは何か。』	④ 『あえて反論』して論証を吟味しよう。	説得力を高めよう	<電子黒板> デジタル教科書 反論の提示
---	---	--	------------------------------	-----------------------------	-------------------------	----------	----------------------------